札幌文学

北海道

北海道の同人雑誌の灯りを守る

　全国どこでも同じだとは思うが、戦後の一九四五年から五年の間に創刊された北海道の同人雑誌は、ざっと数えて五十二誌。その中に私どもの「札幌文学」も加わって一九五〇年一月の創刊。すでに創刊七十一年、現在九十二号発行の準備中という誌歴を持つ道内一の老舗となった。

　創刊時の札幌文学の同人は十三名で、編集発行人は西田喜代司。特に文学的な主義・主張も持たず、何の拘束もなく発表させるという編集方針だったと聞く。だが、創刊号が出たとき「中央文壇と繋がりを持ったなかで次々と同人を押し上げるべき」とする意見が出てきた。これに対して「文学的に荒蕪の地である北海道に肥料を施す役目を果たせばよい」とする西田編集人とは意見が合わず、札幌文学創刊に大きな役割を果たした数人が脱退した。

　このため一時的だが、継続が危ぶまれた札幌文学だった。これ以後、号を重ねるにつれ、道内各地の実力者や有力新人が加わって札幌文学の実績を向上させた。ところが一九五二年、九号を発行する直前、西田編集人が病に倒れ再び一時休刊となった。この時点で同人は四十名だったが、急きょ、澤田誠一が西田に代わって編集発行人となる。再刊十号の後記にその澤田誠一が次のように書いている。

「北海道で文学する者には避けられない、存命的に意識されている者でありたい」

　札幌文学は澤田誠一の後記によって大きな飛躍を遂げたようだ。札幌文学を足場に中央文壇への飛躍を果たした者を含め、梅田昌志郎、橋崎政、真崎晋吾、中沢茂、山田昭夫、工藤欣弥、比良信治、佐々木逸郎、上西晴治、小桧山博など、さまざまな人物が足跡を残し、北海道文学の担い手として不動の立場を確立した。当然、いずれも北海道を

札幌文学会例会（懇親会）札幌すみれホテルにて

舞台にした骨太の作品である。

　編集人は澤田誠一から梅田昌志郎、山田昭夫、小野規矩夫、工藤欣也、小松茂、田中和夫へと引き継がれ、現在は坂本順子が担当している。札幌文学の年二回発行は第三十九号まで続いた。昭和四十年代である。釧路の「北海文学」連載の原田康子さんの「挽歌」が女流文学者賞を受賞し、さらに映画化されたのは昭和三十年代だが、これが機となったのか同人雑誌ブームが全国的に興った。この時代の道内の同人雑誌数は、地方自治体による市民文芸誌も含めて百三十を超えていたらしい。

　だが、時代は急速にデジタル化しつつ進む。

　いつの頃からか、活字離れが進み、新聞購読者の激減、文芸出版物の不振、書店の激減――。そして同人の高齢化による同人雑誌の廃刊、印刷費用の負担増による休刊・廃刊――。

　つい最近、「人間像」と「文芸岩見沢」が終刊になった。歴史があり、優れた作品が載った両誌だった。閉じた理由は同人の高齢化だと聞く。「人間像」は後継者なし、による廃刊だという。

　札幌文学は三十名を超える同人が加わっていた時もあったが、いまは往時の半数近くの同人で年一回の発行を継続している。実は十五年ほど前、「実力ある同人の発表の場」という編集方針を「文学を志す新人に広く門戸を開く作品

札幌文学会例会（合評会）　札幌すみれホテルにて

発表の場」に改めた。そして同人費は年間二千円。宣伝をしたわけではないのだが、これまで男性中心だった札幌文学はにわかに女性同人が加わって、彩り豊かな文芸同人誌に変貌した。これも同人雑誌の裾野を広げ、新しい方向に進む発展の一つの道だと納得している。

　これもまた古い話だが十年前の春、「江別文学」と「鉄道林」の編集者に声をかけ、「札幌地方同人雑誌懇話会」を立ち上げた。やがては北海道内の同人誌間の交流を図り、それをバネに互いの活性化を図りながら同人誌の継続発行を願う企画だった。参加は当初、札幌圏内の十八誌で、連絡会を重ねるごとに参加が増え、翌年には「札幌地方同人雑誌作品選集（第一集）を刊行するまでに発展した。掲載作品は各誌を代表するもので、各誌に委任だった。紀伊國屋書店札幌駅前本店ギャラリーでの「同人雑誌フェスティバル」も決まった。同店二階ギャラリーで開催の「パネル展」も大入りだった。その翌年、「札幌地方」を「北海道」に改め「第二集」を刊行した。

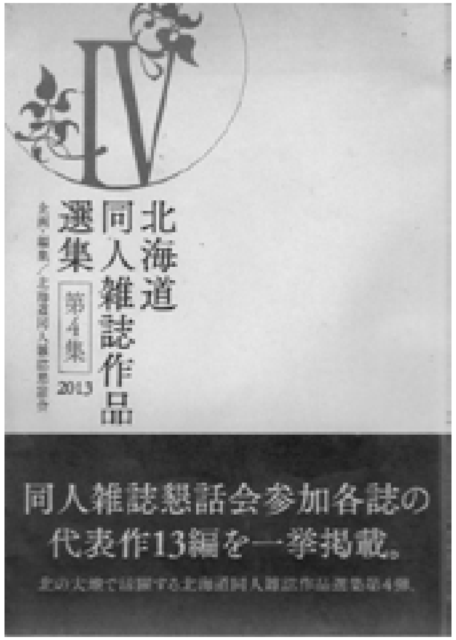
「北海道地方同人雑誌作品選集」は、当初の予定通り第五集で終了した。

　五年にわたる選集刊行とパネル展開催で知ったのは、小説や随筆を書きたいと思っている人が非常に多いことだった。その思いは様々だが、そのシーンに出会うごとに同人雑誌に関わる周りの仲間たちを見回してしまう。

北海道同人雑誌懇話会／加入同人雑誌の代表会議　札幌すみれホテルにて

　そして「北海道の同人雑誌の灯かりを守る」と自分に言い聞かせながら、私どもの強靭な信念は、今も、これからも決して崩れることはない、と再び言い聞かせてしまう。

（文責／田中和夫）



「札幌文学会」　代表・田中和夫　編集発行・坂本順子
〒001・0034
北海道札幌市北区北34条西11丁目4・11　209
坂本方　TEL011・746・5802